

## 猿投山北断層について

担当：名古屋大学 M1 丸山陽央

活断層研究会編(1991)は、猿投山北断層を特に新鮮な変位地形が認められる右横ずれの断層とし、愛知県瀬戸市南部から岐阜県瑞浪市に続く河谷の屈曲や山地の高度などの地形的特徴から、北東部では北側が、南西部では南側が隆起する活断層としている。明瞭な右横ずれ地形を有する愛知県内唯一の特徴的な活断層で、中部地方南部においてこれほど明瞭な右横ずれ断層はほかには例がない(鈴木・野澤, 2006)。右横ずれ量は200~500mにおよび、延長21 km、確実度Ⅰ~Ⅱ、活動度B級の活断層として記載されている。

猿投山北断層ではトレンチが行われており(愛知県建築部・玉野総合コンサルタント(株), 1997; 鈴木, 2001)、最新活動としては約7600年前以後、約5400年前以前と推定されている(地震調査研究推進本部, 2004)。また、ひとつ前の活動は21000年前以後、約20000年前以前、2つ前の活動は約34000年前以後、約22000年前以前だと推定されている(地震調査研究推進本部, 2004)。しかし、鈴木・野澤(2006)によると、過去2万年の間に4回の活動があり、平均活動間隔は約5000年±400年、最新活動は3230~1840yBPであると述べ、それらの周期性は極めて高いとしている。平均変位速度については、猿投山北断層は丘陵および山地内を通過する区間が多く、断層上に変位基準となる地形面や若い地層が見出されにくい。このためトレンチ地点以外の平均変位速度は今のところ判明していない(鈴木, 2001)。鈴木(2001)によると、トレンチ調査地点において、確認された鉛直変位量は約2mと求められ、トレンチから推定された活動平均間隔は約5000年±400年であり、これらから平均変位速度は約0.5m/kyと求められる。断層面は東傾斜で高角度(70~80°)と推定されている。

### 参考文献

愛知県建築部・玉野総合コンサルタント(株)(1997):「平成8年度瀬戸市南東部開発事業地質調査報告書(2)第2編断層調査」。

活断層研究会編(1991):「新編 日本の活断層」, 東京大学出版

鈴木康弘(2001):猿投山断層, 岡田篤正・牧野内猛・鈴木康弘編「愛知県の活断層(その3)」, 1-27。



図1 猿投山北断層の位置図(地形図は国土地理院による)。

図1 猿投山北断層の位置図

鈴木康弘・野澤竜二郎(2006)：猿投山北断層のトレンチ調査 - 横ずれ断層の活動認定と議論 -, 号外地球(54), 171-179.

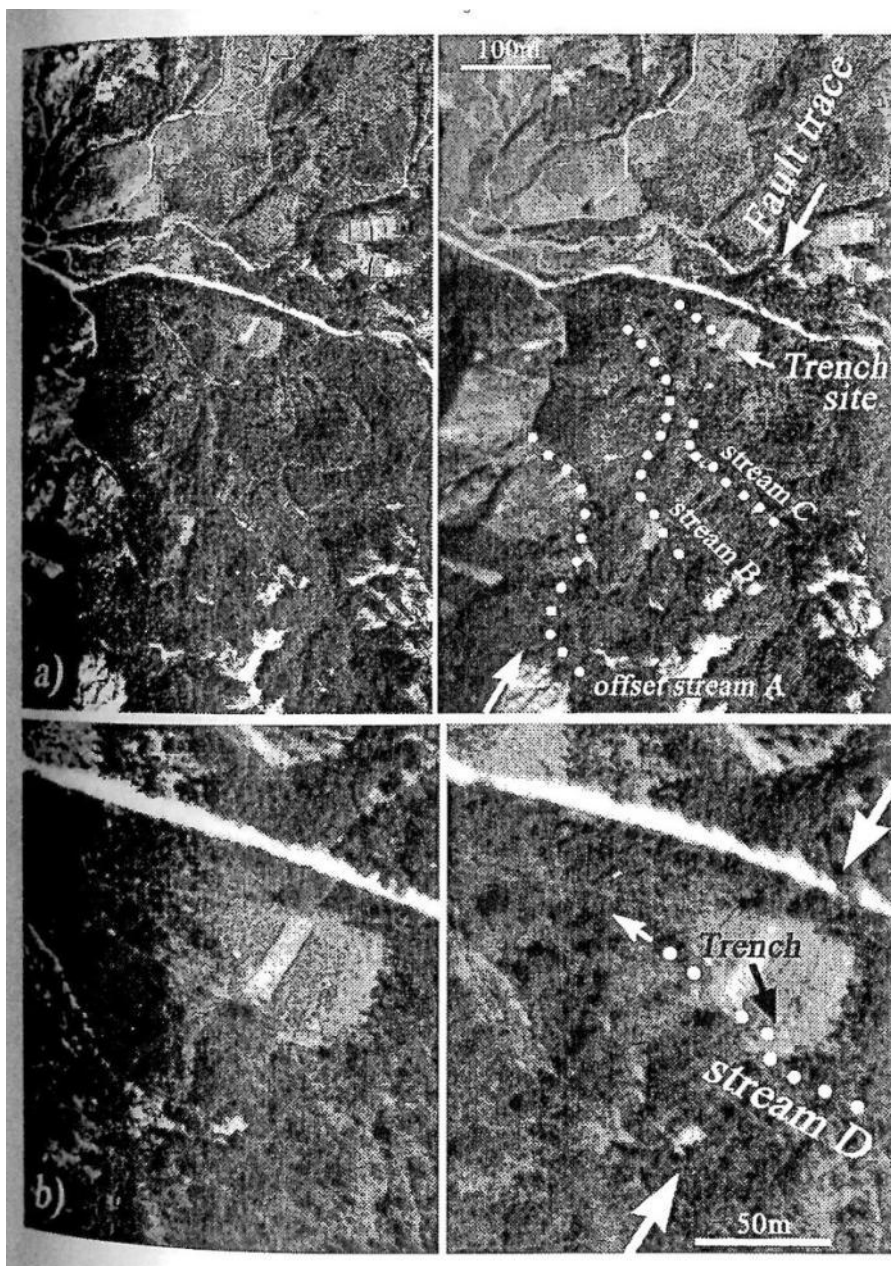


図2 トレンチ掘削地点付近の谷の横ずれ

## 海上の森

担当：信州大学（千葉、澤崎、清水、池田）

### 【地形・地質】

基本的な地質は花崗岩であり、その上に河川堆積物である山砂利層がのっている。山砂利層は「土岐砂礫層」とも呼ばれ、チャートなどの風化しにくい礫や砂からなっている。この山砂利層の厚さは一様ではなく、東に至るほど山頂や尾根部分だけに見られるようになり、西の端では平野部に接する状態になっている。このような地質構造を反映して、山砂利層におおわれる西側は、緩やかな傾斜がみられ、花崗岩優勢地帯である東側では、小規模な深い谷状の地形が多く、傾斜も急である。



地質分類図

堆積層の中には鉄分を多量に含む層がある。このような鉄を多量に含む層は、沼沢地のような条件で形成されるので、堆積時の環境は「沼沢地」や「ワンド（川の本流と繋がっているが、河川構造物などに囲まれて池のようになっている地形のこと）」などが複雑に入り組んだ地形であったことが伺われる。○土岐砂礫層・・美濃帯堆積岩類、花崗岩類、濃飛流紋岩の三者でおもに構成されており、その上に新第三紀の中新世に形成された瑞浪層群が覆っている。鮮新世から第四紀の更新世前期になって、これらの岩石や地層を覆って東海層群が堆積した。東濃地方では、これを瀬戸層群と呼び、下位の土岐口陶土層と上位の土岐砂礫層からなる。



黄色は山砂利層、赤色は花崗岩

丘陵地の高いところにかなり普遍的に分布しており、平坦な地形面を形成している。含まれる礫が周辺に分布する美濃帯堆積岩類、花崗岩類、濃飛流紋岩などからなり、チャート礫を除いてすべて風化して、軟らかくなっていることを特徴としている。

### 【植生】

海上の森は近代以降、瀬戸焼の陶土や窯の燃料の採取のために樹木の伐採が進み、明治期にはその一部が樹木の乏しい荒廃地となったこともあるが、多くの先人の努力と自然の力によりその緑が回復された歴史を持つ。

現在、海上の森にはシデコブシなどの東海丘陵要素植物と呼ばれる特異な植物が育成している。東海丘陵要素とは、伊勢湾地域の丘陵・台地地形の形成過程において、東海地方

の丘陵や台地の低湿地およびその周辺に固有もしくは日本でその分布の中心がある植物のことでシデコブシをはじめ、15種がこれにあたる。東海丘陵要素は花崗岩質の土岐砂礫層の小規模な崩壊部から湧水する小規模な湿地や沢筋に生育するため、植物の遷移によって消滅しやすく残存量が少ない。しかし、海上の森は、花崗岩と砂礫層の2つの異なる地質からなることが要因となって東海丘陵要素を多産している。花崗岩地域においては花崗岩の崩壊が断続的に起こり、東海丘陵要素の植生に適した土壌が供給される。一方、砂礫層地域は、透水性が高く、貧栄養で植物が育ちにくく、これが東海丘陵要素消滅の原因である遷移を抑制している。

東海丘陵要素の他にも植生が豊富であり、中村ほか（1999）は、海上の森の維管束植物の種多様性の評価から海上の森の自然の豊かさを指摘している。

【愛・地球博】

あいち海上の森センター…愛知万博開催時の瀬戸愛知県館を活用したもの。海上の森の保全と活用の取り組み、森林や里山に関する学習と交流の拠点となる施設。展示スペース、情報ライブラリー、研修室、工作室、事務室等で構成。愛知県はここで展示等普及啓発、参加交流、調査学習、情報発信等の業務を行っている。



愛知県公式ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/>

愛・地球博の企画時は、この森をつぶしてパビリオンを建設する計画があったらしいが、地元住民の反対活動によって、この森は現在のように残された。現在でもこの海上の森には絶滅危惧種に属しているオオタカをはじめ、多くの希少な動植物が生息している。

引用文献

『海上の森の自然』海上の森生態研究会ホームページ」

<http://had0.big.ous.ac.jp/kaisyonomori/kaisyo.htm>

「岐阜の地学・よもやま話」

<http://chigaku.ed.gifu-u.ac.jp/chigakuhp/html/kyo/chisitsu/gifunochigaku/main.html>

あいち海上の森センター <http://www.pref.aichi.jp/0000012453.html>

愛知県公式ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/>

中村俊彦・須賀はる子（1999）：植物の多様性に基づいた「海上の森」の自然評価：種数・面積関係を用いた種多様性評価手法

上野薫・南基泰・寺井久慈・河野恭廣・山谷鉄郎（2004）：東海丘陵要素植物の生育環境に関する研究

## 猿投神社

鈴木 綾香 (信州大学)

猿投神社は豊岡市猿投山麓にある神社で、三河国の三宮の一つである。大碓命を主祭神とし、大碓命の父である景行天皇、祖父の垂仁天皇を配祀している。麓にあるのが本社で、山頂に奥の院の西宮と東宮がある。大碓命は古墳時代の皇族の一人で、小碓命（日本武尊）の双子の兄にあたる。大碓命はこの地の開拓に尽くしていたが、猿投山で毒蛇に咬まれて亡くなり、山上に葬られたとされている。猿投山西峰にある西宮の後には墓所もある。



猿投神社では、古くから「左鎌」を奉納して祈願する習慣がある。これは御祭神・大碓命が左利きであったことから、左鎌を用いて開拓されたことをしたったことが起こりではないかとされている。また、県の無形民族文化財に指定されている「棒の手」の奉納で有名な猿投祭りがあり、その舞台が猿投神社である。「棒の手」とは、剣術、棒術、薙刀術などの日本舞踊の形を踊りにした伝統芸能の愛知県近辺での名称で、愛知県ではその流派が十以上ある。

### ・猿投まつり

猿投まつりは毎年10月第2土曜日試楽祭、翌日の日曜日に本楽祭が執り行われる。試楽祭では、幻想的な御輿渡御と、力強い棒の手の奉納が行われ、本楽祭では、棒の手や巫女舞などの奉納が行われる。

起源は16世紀後半と言われ、最盛期には尾張・三河・美濃の186ヶ村から献馬や棒の手が奉納されていた。境内で棒の手の競い合いをすることもあったが、もめ事になることが多く「喧嘩まつり」の異名があったこともあるそう。

### 参考・写真

豊田市観光協会公式サイト - 猿投神社

<http://www.citytoyota-kankou-jp.org/spot/3/15/42/>